

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670100712
法人名	医療法人 松岡会
事業所名	山城グループホーム
所在地	徳島県徳島市山城西3丁目19番地 (電話) 088-657-6566

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 9月 4日

## 【情報提供票より】(平成19年 8月 15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成12年 11月 21日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
	常勤9人, 非常勤10人, 常勤換算 南棟7人, 西棟7.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	理美容代1回500円・その他実費
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	260 円	昼食 520 円
	夕食	520 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

### (4) 利用者の概要( 8月15日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85, 2 歳	最低	69 歳	最高	102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・米沢歯科 ・山城クリニック
---------	----------------

徳島県 山城グループホーム 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、母体のクリニックや併設のデイサービスと連携が密であり、医療、リハビリ等において安心感がある。介護度の高い利用者もいるが、事業所の方針として、終末期まで支える介護が示され、話し合いが持たれている。また、つながりを大切にし、利用者一人ひとりの家族に対し、毎月手作りの「お便り」を作成して、個々の暮らしぶりを伝えている。事業所の周辺には大学、公共施設、喫茶店などがあり、大学生との交流、イベントへの参加、喫茶店の利用など、外部とのつながりを作ることに努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題は、管理者、職員で話し合い改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者及び全職員が話し合い、作成している。その中から出てきた課題については、全職員で検討し改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、事業所の運営状況や利用者の暮らしぶりを報告し、事業所を知ってもらう取り組みがなされていた。また、参加者から、いろいろな意見も出し合ってもらい、質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時には、意見や要望を聞くことに努め、意見が出た場合には、改善への対応をしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の防災訓練や大学の学園祭、公共施設の行事などに参加している。また大学生の実習やボランティアの受け入れをして、地域との連携を図っている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の目指すサービスについて話し合い、独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝の引継ぎ時に理念を唱和し、日々のケアにおいて理念を実践する事を確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の防災訓練に参加したり、近くの大学の学園祭や公共施設の行事に参加するなど、積極的に外部との交流を図っている。利用者と共に喫茶店などにも出かけて、顔見知りの関係を築いているが、地域住民との交流までには至っていない。	○	地域の町内会や地域団体に働きかけ、地域の一員として積極的に地元との交流を深められることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価については、職員間で話し合いを持ち、取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催し、事業所の運営状況や利用者の暮らしぶりを報告している。また、参加者から、いろいろな意見も出し合ってもらい、質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村への毎月の報告は、直接市へ出向いて担当者に手渡し、顔馴染みの関係を築くことに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりを撮影した写真や職員のメッセージで綴られた「お便り」を利用者ごとに作成し、毎月家族に送付している。預かり金は、領収書と共に家族に収支報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の折や家族の訪問時に、意見を聞くことに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での職員の異動や離職があるが、その際には利用者への影響がないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、研修の機会の情報を得て、自主的に参加しているが、事業所の研修計画が無く職員が段階的に受講できるまでには至っていない。また、研修を報告し全職員が共有できる仕組み作りがされていない。	○	事業所として職員の年間研修計画をたて、職員全員が段階的に研修に参加できる機会を設けることが望まれる。また研修したことを報告し合い、その内容を職員みんなが共有できるような仕組みを作っていくことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入しており、他の事業所と相互訪問や情報交換を行って、サービスの質の向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1週間程度の体験利用をしてもらい、本人が安心感を持って利用できるよう配慮している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いや言葉に耳を傾け、時には利用者から教わる関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や思い出話の中から、本人の希望や思いを把握して、昔馴染みの所に出かけたり、好みのものを見出すことに努めている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の関わりの中で本人の思いを聞くことに努め、また家族の意見を聞いた上で、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的な見直しのほか、状態の変化に応じて見直されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制や短期利用共同生活介護の指定を受けられ、支援されている。また、利用者の通院時における付き添いなどの対応をされている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医や特に希望する医療機関がある場合には、職員が付き添って受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対処については、家族と話し合いが持たれ、方針を決めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常日頃から、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応や声かけに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に配慮しながら、一人ひとりの望むことを汲み取って、ゆっくりとしたペースで過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助の必要な利用者もいるが、できるだけ職員が利用者と一緒に食事ができるように配慮している。職員と利用者が共に後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、希望があればいつでも入浴できる。入浴を嫌がる利用者には、様々に工夫をして、本人が自然に入る気持ちになれるよう支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗い物や掃除など本人のできることを見つけて、職員が見守りながら行っている。併設のデイサービスで、絵手紙や習字などに参加させてもらい、時には喫茶店を利用した作品展なども行って、利用者の楽しみになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	馴染みの喫茶店へ頻繁に出かけたり、車で外食に出かけたり、戸外に出る機会を作っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の目配りを徹底する事に心がけ、日中は鍵をかけない支援がされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルがあり、また年2回の訓練を行っている。近くの警察署の行う七夕飾りに、利用者が参加させてもらうなどして、理解を得るためのつながりを作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取量は、チェック表に記録し、一人ひとりの状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、適度な装飾があり、過ごしやすさと安全性を考慮した家具の配置が工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、本人が過ごしやすように配置している。		